

# 花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年5月29日 NO.19 (119)



オー君 「あ！ダンゴムシだ。」

花ちゃん 「かわいいね。マル虫とかボール虫とかともよばれるね。あのさ、オー君、ダンゴムシって、虫なの。」

オー君 「そういえばそうだ。虫は足が6本で、頭（あたま）と胸（むね）と腹（はら）からできているんだよな。こいつには、いくつ足があるんだ。」

花ちゃん 「かぞえてみようよ。1・2・3・・・14もあるぞ。」

オー君 「それじゃ、虫ではないぞ。なんなんだ、コイツ！」

モンタ博士 「ダンゴムシはね、甲殻類（こうかくるい）といって、エビやカニの仲間（なかま）なんだよ。」

花ちゃん 「でも、エビやカニは、みんな水の中で生活しているでしょ。」

モンタ博士 「生き物は、みんな海（うみ）からあがって川に入り、そのあと、沼（ぬま）や湿地（しっち）に入り、やがて陸地（りくち）で生活するように進化（しんか）したのさ。」

花ちゃん 「なるほど、ところで、ダンゴムシに近い生き物ってどんなものがあるのかな。」

モンタ博士 「波（なみ）しぶきがかかるような磯（いそ）にいるフナムシや、湿（しめ）ったところがすきなワラジムシなどがいるね。」

オー君 「つまり、ダンゴムシは、海から直接（ちよくせつ）陸地に進化したんですね。」

モンタ博士 「そうさ。ダンゴムシは、かわいた環境（かんきょう）にも適応（てきおう）するように進化したというわけさ。」

花ちゃん 「ところで、ダンゴムシは、すぐに丸くなるのは敵（てき）から身（み）を守（まも）るためですか。」

モンタ博士 「もちろんそうだろうね。でも、乾燥（かんそう）から身を守るためかもしれないよ。せなかのかたいからも、水分（すいぶん）の蒸発（じょうはつ）を防（ふせ）ぐためかもしれないね。」

オー君 「そうか。ダンゴムシが石の下や落ち葉（おちば）の下に集まっているのもそのためなのか。」

モンタ博士 「ダンゴムシは、昔（むかし）は、便所（べんじょ）ムシともよばれていたんだ。昔の便所は、じめじめしたところにあったからね。それも乾燥から身を守るためさ。」

花ちゃん 「コンクリートブロックの下やすきまなどにいるのは、どうしてなんですか。」

モンタ博士 「ダンゴムシはコンクリートも食べるのさ。背中のはらは炭酸カルシウムからできているんだ。海の水には、十分なカルシウムがとけているんだよ。陸地ではカルシウムがないだろう。カタツムリもおなじで、ふるさとをはなれたダンゴムシには、コンクリートは母なる海の味（あじ）がするんだろう。」

### 三葉虫の末裔は・・・ダンゴムシ

5億年前のはるか遠い昔。カンブリア紀と呼ばれた時代に、多様な生物群が様々な進化を遂げた。これを、生物界では「カンブリアの大爆発」という。また、古生代前期のカンブリア紀に、これほどの進化を遂げた生物たちが、なぜか突然に姿を消し90%が死に絶えた、同じく古生代末期の「ペルム紀の大量絶滅」。地球上の生物の消長を俯瞰するに、この大量絶滅は、白亜紀末期のそれをはるかに上回る（恐竜・アンモナイトの死滅）といわれている。

古生代にもっとも花開き繁栄を極めたといわれる三葉虫も、今では全て化石の世界にしか存在しない。しかし、ところがどっこい。がちり・ちゃっかり・しっかり・ひっそりと、私達のまわりで命をつなぎ、連綿として、はてしない地球の歴史を生き抜いて来た末裔こそが、我らがダンゴムシなのである。じめじめした石ころの下で、ダンゴムシ君よ！きみは今、何を思う・・・。